

街を行く

第153回 築地 Tsukiji

この先の変貌ぶりが見ものです



いつもの築地、いつまで見られるか



今回は、都心部再開発のラストリゾート、市場跡地の再開発をめぐって注目を集める築地の街を紹介していきます。もともと浅草にあった本願寺が「明暦の大火」で焼失、寺の移転に際して海を埋め立てたこの界隈を築地と呼ぶようになったのが由来らしいです。現在の築地本願寺は関東大震災で焼失した本堂を建て替えたもの。元祖本願寺からすれば三代目に当たります。関東大震災は1923年9月1日、奇しくもこの原稿を書いているちょうど100年前。感慨深いものがありますね。

建物は国内の寺院と比較すると少し変わっていますが、これは設計者がシルクロードにある中央アジアの寺院を参考にしたのだそうです。なるほど、仏教の本場から来ているとなると納得いきますよね。

この街のもう一つの顔として、旧東京卸売市場がありました。長い間東京の胃袋を預かってきた市場が豊洲へ移転したのはつい最近のこと。小生はいま

だに豊洲と言われてもまだピンときません。ただ場外市場は未だこの地に留まっており、海外を含めて多くの観光客を集めています。新しく変わっても長い間の伝統には特別の思いがしみこんでいるんですね。ところが最近巷ではこの街の再開発の話が持ち上がっています。東京都は近いうちにコンペを開き、最も街の活性化を考えている企業連合を選ぶようです。個人的にはこれ以上再開発が必要かとは思いますが、活性化というお題目を上げられるとぐうの音も出ませんが、願わくば、他の街をコピーした金太郎飴をつくるみたいな開発だけは避けたいものです。築地という名のもとにふさわしい街づくりを願っています。また、その様になってもらわないと、この「街を行く」の連載も変化にとんだ物にはなりません。ショッピングセンターーやホテルは金太郎飴的都市の大きな原材料でもあり注意する必要があります。その様なことを考えながらこの街を久しぶりにゆっくりと歩いて

みましたが、センチメンタルな気分にひたっていてもしょうがありません。街は生きていますし、呼吸もしています。その為にも新鮮な空気をたっぷりと送りこんでやらなければなりません。それが新しい街づくりだという事もわかっています。卸売市場が築地から豊洲に移ったように、この街へも何かが移ってくることを期待したいです。変化は街の繁栄を起こすのです。皆さんで応援していこうじゃありませんか。でも日本はスクラップ&ビルドが好きですよね。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アライジションズを経て、2001年エースト・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。